

小池 宏明 牧師

主イエス・キリストをこの地上にお迎えするための役割を果たしたのは、マリアだけではなく、マリアの夫ヨセフもまた、主なる神様から与えられた役割を担った。

#### \*ヨセフの葛藤

御使いガブリエルが現れて、マリアに子どもが与えられると告げてから、恐らく数か月が経って、マリアが身籠っていることをヨセフは知った。ヨセフは、大変驚いたことだろう。身に覚えがないことであり、何らかの事情があるにせよ、その子どもはマリアの不貞の結果であると思ったようだ。ヨセフは「ひそかに離縁しよう」と思案した。それは、ヨセフが正しい人でマリアをさらし者にしたくなかったからだ。ここで言う「正しい人」とは、神様が正しく聖いお方であると共に、憐れみ深いお方であることを理解している人のことである。ヨセフは神様の正しさを知っていて、自分が密かに離縁すれば、マリアはさらし者（姦淫の罪で石打の刑を受ける者）にされなくて済むと考えたのだ。ここにヨセフの葛藤がある。聖霊によって身籠るという真実を先に知らされていれば、この葛藤は必要なかったかもしれない。しかし、主なる神様はヨセフがいろいろと思い悩んで、葛藤するように導かれた。それは、マリアとその胎内の赤ちゃんを共に迎え入れる決断を、ヨセフにさせるための葛藤ではないだろうか。これからヨセフは身重のマリアと共にベツレヘムまで行くことになる。また、産まれたばかりのイエス様の命が狙われているために、マリアと赤ちゃんを連れてエジプトまで逃げることになる。幾多の困難を乗り越えながら夫として妻と子を守り抜くために、生半可な気持ちで一緒に暮らすことは出来ないのである。主の使いによる、確かな語りかけが必要だった。

#### \*ヨセフの決断と私たち

ヨセフは御使いのお告げを聴いてどうしただろうか。ヨセフが思い巡らした通りのお告げではなかった。神様が告げられた真理の言葉に接する時、私たちの思いをはるかに超えた道へと導かれていく。

私たちも神様の救いを告げ知らせる宣教の働きに加えられている。主のために、隣り人のために、愛する動機で思い巡らすことはとても良いことだ。しかし、思い通りにいかない、それどころか全く予期しないことが待ち受けていたりもする。しかし、預言のことばを成就される主が、インマヌエルの主が共におられる。最終的には、私たちの思いをはるかに超えて、主が命じられた通りに導かれていくのである。

今週も、地上に、私たちのところに来て下さった主に感謝し、御ことばに従って歩みだそう。